

この街が
好きだから

大須賀一雄 武蔵野スケッチ物語 ④6



見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。
そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。

関前二丁目付近

今回の作品は、場所を決めずにバスに乗り、関前二丁目まで下車してから、あちこち歩いてようやく見つけた所で描いたものである。地名は、通りすがりの人に教えてもらった。

絵を描いている時、突然背後から、「あら、先生ではないですか」と私に声をかけた女性がいる。振り返って見ると、昨日たまたま電話で近況を伝えてきたMさんではないか。お互いにとって思いもかけない場所での出会いに、思わず顔を見合わせて笑ってしまった。

間もなく絵が完成したので、最寄り駅まで歩いて行こうと用具をまとめて歩き出した。しかし、時間がかかりそうなので、通りがかったムーバスに乗車した。多少、時間はかかったが、百円で三鷹駅までは安い料金だ。狭い路地をくねくね回るバスの運行は、さながらロンドンオリンピックのマラソンコースのようで、運転手の御苦労は大変だと感じた次第である。

(絵と文 大須賀一雄)

大須賀一雄 (おおすか・かずお)

水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』(日貿出版社)、『スケッチお手本帖』(素朴社)ほか。現在、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も25回を超える。

大須賀一雄 透明水彩の世界展 会期：10月3日(水)まで 会場：東急百貨店吉祥寺店8階美術サロン